

## わが舎を旅立つあなたに ～感謝をこめて～

偲ぶ会を通じて・・・

特別養護老人ホーム 好日の園

### <施設概要>



「日々これ好日、すこやかな毎日のお手伝い」

### <取り組んだ課題>

- \*平成29年～看取り介護導入\*
- 『偲ぶ会』開始(ご家族様含む)

看護師：一連の援助を評価する機会となる  
＝看護の**結び**

では...  
ご家族様・他職種：「どう思っているのか？」

☆それを知ることで、『偲ぶ会』を  
より充実させられるのではないか？

### <具体的な取り組み>

- \*『偲ぶ会』の意味について仮説を立てる



- \*全職員と、協力していただけるご家族様に、  
アンケートおよび面談を行う

6月1日：アンケートを作成し、全職員に配布  
6月5日：施設の会議室にて、K様と面談  
6月6日：施設の会議室にて、M様と面談  
6月8日：職員アンケート回収、面談内容の記録と  
アンケートを取りまとめ、振り返る

### 自施設での偲ぶ会について

開催日時：遺留金品の引き渡しを行う日

開催場所：会議室

参加者：ご家族様、施設ケアマネ、  
生活相談員、介護職員、看護師、  
管理栄養士

所要時間：15分～30分

### 偲ぶ会の意味についての仮説

- ・看取りの援助の総合的な評価ができる。
- ・職員にとって看護・介護の結びとなる。
- ・次の看護・介護へと発展させる機会となる。

## ＜活動の成果＞

### \*職員アンケート回収結果

- ・介護職員 21名/23名
- ・他職種職員 5名/5名  
(生活相談員、看護師、管理栄養士)

\*介護職員の平均経験年数：9.9年

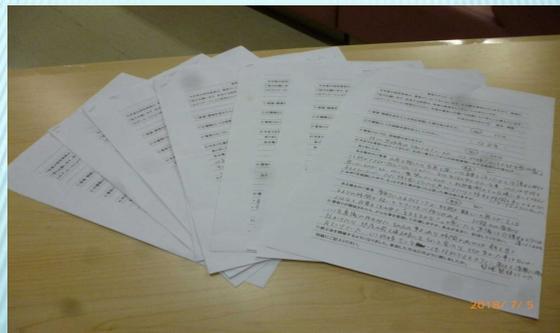
## 職員アンケート内容

- ①家族・親族を含めて、人の死を体験したことがありますか？
- ②介護職としての経験年数を記入して下さい。
- ③看取りというと、不安やとまどいがありますか？ある方は具体的にどんな事柄か記入して下さい。
- ④看取り導入の前後で、利用者様に対する気持ちや対応の変化がありましたか？

## 職員アンケート内容

- ⑤看取りを経験した中で、もっとできた事があったと思ったことはありましたか？
- ⑥看取りが開始されたらどんな事を意識して介護しますか？
- ⑦偲ぶ会を開催するようになりましたが、参加した方はどのように感じましたか？

## 職員アンケート



## 職員アンケート結果

- ・直接ご家族様に介護や食事に対してどう思っているのか聞くことができ、今後の介護や看取りケアに、よりよく繋がっていくのではないかと思います。
- ・援助の中でもっとできることがあったのではないかと思います、すっきりしなかったが、家族の声を聴くことが出来て気持ちが楽になりました。
- ・自分のグリーフケアにもなるような気がしました。

## 事例① K様

大正6年10月21日生まれ 女性 介護度：5

障害者自立度：C2 認知症自立度：V

入所期間：平成23年5月20日～平成30年3月10日

看取り期間：

平成30年1月29日～3月10日午前8時45分  
100歳で永眠される

背景：一人息子が夫婦で介護していた。

平成20年右大腿骨転子部骨折を機に老健入所。  
平成23年～当施設入所。

## 事例① K様

### \*ご家族様との面談

- ・再び振り返ることの気持ちの負担はなかった。
- ・ここでの細かな生活が分かったから良かった。
- ・職員が困ったことは何か、様々なエピソードを聞くことによって、職員との距離が縮まった。
- ・施設にいなければ、100歳までは無理だった。

## 面談写真



## 事例② M様

大正9年3月24日生まれ 女性 介護度：5

障害者自立度：B2 認知症自立度：Ⅲa

入所期間：平成28年6月22日～平成29年11月28日

看取り期間：

平成29年11月26日～11月28日午後8時50分

分

97歳で永眠

## 事例② M様

背景：

長男夫婦と同居していたが、同居が出来なくなり、有料老人ホームへ入所。  
平成27年転倒し、硬膜下血腫となり、急激にレベル低下となる。食事がほとんど摂れず、栄養補助食品を飲用していた状態で、当施設入所となる。  
施設入所後は、長女様がキーパーソンとなる。

## 事例② M様

### \*ご家族様との面談

- ・家で亡くなるよりも偲んでもらえて良かった。親しい人が亡くなったように接してくれて、私も区切りがついた。



## <活動の評価>

- \*アンケートを通じて、仮説に近い結果を得ることが出来ました。
- \*面談により、ご家族様も心の切り替えができたと思います。

## <今後の課題>

取り組んだ期間が短いため、成果のような  
実体験をした職員がわずかでした。

どの職員も同じような経験ができる  
『恩ぶ会』を目指したいです。

それが職員のグリーフケアに繋がっていくと  
思います。

